

社会環境活動レポート2011

Corporate Social Responsibility



〒950-1492 新潟市南区清水4501-1
TEL. 025-371-4111(代)





コメリのねがい

世の中の人々の幸せのために

この仕事がありますように

ここに集う人々の幸せのために

この仕事がありますように

この企業に縁ある人々の幸せのために

この仕事がありますように

世の中によつて生かされている—。人も企業も

私たちの周りには、鳥や魚、動物たちや花や木、それぞれが調和を保ちながら共存しております。それは、かけがえない大地のめぐみのおかげです。

人も、この自然の中に生かされ、豊かな生活を育んできました。自然を大切にすることが、人類の豊かさを守ることもあると思います。

コメリは、この大地が美しい花や緑の木々にあふれ、いつまでも豊かで平和な世の中であってほしいと願っております。

この願いのもと、コメリは毎年、利益の1%相当額を原資に、日頃お世話になっている地域への還元活動を行っております。

人も企業も世の中によつて生かされている—。

いかに世の中が変化していこうとも、幸せに生きたいという人々の願いがある限り、そこに力を注ぐ企業は永遠に生かされる、とコメリは考えます。

私たちの活動が、豊かな社会づくりに役立ち、皆様に喜んでいただけるよう、これからもコメリは、木を植え、花を咲かせてまいります。



株式会社コメリ
代表取締役会長

捧 賢一



地域になくってはならない コメリでありたい

日本経済を取り巻く環境は、未だ厳しい状況が続いています。デフレ経済や少子高齢化の問題などが深刻化する一方で、国際化や情報化などが加速度的に進んでいます。世の中の変化は年々大きくなり、そのスピードは早くなっているのです。こうしたなかで、コメリは住の分野の流通を担うことで本物のホームセンターを目指しています。時流に乗って変化を捉え、流れを察知して素早く対応する会社でありたいと思います。

企業は社会の中で一つの役割を担い、機能を果たしています。近年、CSR（企業の社会的責任）という言

葉がさかんに使われていますが、企業とはそもそも本業によって社会の中で大きな役割を果たしていると思うのです。まずは本業をまっとうすることで世の中の役に立ち、お客様に必要とされる。それがわが社のCSRの根本です。またそれにより適正な利益を出し、会社が成長していくことは事業を継続していく力にもつながります。会社が成長し続けることは、お客様に支持しつづけられるということ。これこそが企業のあるべき姿なのだと思います。

コメリは創業当時より出店を続けてまいりました。そして現在、全国に1,000カ所の店舗と8カ所の物流センターを保有しています。これにより合理的な仕組みを構築し、災害など有事の際でも、安定的に商品を提供する仕組みを築きました。また農業問題や環境問題が深刻になるなか、園芸農業用品をきっちりと扱い、農家様にも喜んでいただいています。

2011年3月に発生した東日本大震災では津波や原発の問題など被害が広がり、コメリの多くの店舗も被災しました。そして通信の寸断や燃料不足による物流機

能の停止、取引先工場の被災などで、商品の調達や配送が滞りました。そのようななかコメリはいち早く店を復旧させ、お客様に商品をお届けしてまいりました。またNPO法人コメリ災害対策センターでは、自治体と連携しながら被災地に災害復旧用品を供給しました。当時の被災地の店長は、店舗が被災してお客様が本当に困っているときに営業できない辛さを痛感しながらも、店を再開したときに嬉しそうに買い物をするお客様を見て、涙が出るほど嬉しかったと話しています。「店はお客様のためにある」。お客様の喜ぶ姿は、われわれの何にも代えがたい喜びなのです。

コメリは地域の皆様に支えていただきながらここまでできました。お世話になっている地域の方々が本当にお困りになっているときこそ、頼っていただけるコメリでありたい。必要なときにきっちりと供給責任を果たすことがコメリの使命であり、またコメリの存在意義はここにあるのだと思います。

これからも地域になくってはならないコメリとして、世の中のお役に立ち続けたいと思います。

株式会社コメリ
代表取締役社長

捧 雄一郎

3.11 東日本大震災



震災直後の3月13日、緊急物資を店頭で並べて販売するH&G大船渡店(岩手県)。被災地の各店舗は可能な限り営業を続け、物資を求められるお客様のご要望にお応えしました。



NPO法人コメリ災害対策センターは、災害復旧用品をコメリの各流通センターに備蓄。東日本大震災において備蓄品を出荷することで、行政からの物資要請により迅速に対応することができました。

東日本大震災 ― 捧社長が従業員に向けたコメント

3月15日、16日と被災地に入りました。津波被害を受けた地域の瓦礫の山は、今回の震災の甚大さを物語っています。状況は店舗ごとに異なり、通信も寸断されてコミュニケーションも十分に取れないなか、各店舗とも従業員全員が心一つにして臨機応変に対応し、復旧やお客様への対応を行っています。

「コメリのねがい」や「コメリ綱領」など、われわれの行動のベースになっている指針のもと、それぞれの店で頑張る仲間と会い、胸がいっぱいになりました。この困難と一緒に打ち勝っていきましょう。

(2011年3月20日)



被災店舗をまわり、激励の言葉をかける捧社長(写真は岩手県H&G金ヶ崎店)。



利益の1%還元「コメリ緑資金」を始めるきっかけとなった、本成寺の庭園 三軌苑

コメリ緑資金

地域社会へのご恩返し「コメリ緑資金」

コメリの創業の地は新潟県三条市です。株式上場を目指して本社を新潟市に移転する際、お世話になった地元へのご恩返しにと、三条市にある名刹・法華宗総本山本成寺において、1989年、地元産業界の方々と協力して荒廃していた庭園の復元を行いました。この事業は地元の皆さまに大変喜ばれ、今では毎年茶会が開かれるなど市民が集う場所になっています。

この事業をきっかけに、コメリは利益の1%を継続的に社会に還元していくことを決定し、1990年に「コメリ緑資金の会」を設立しました。以来「コメリ緑資金の会」では、日頃お世話になっている皆さまへの感謝の気持ちを込めて、出店地域における緑化活動を支援しています。

広がる1%還元事業

活動当初は緑化活動への助成が主なものでしたが、出店地域が年々広がり、また時代とともにコメリへ寄せられる期待も変化してまいりました。そんなことから、1996年に「財団法人緑育成財団」を設立し、園芸や農業分野における研究開発事業への助成をスタートしました。また1999年からは従業員が幼稚園や小中学校等にボランティアで花を植える「コメリ緑資金ボランティア」制度を導入。従業員と地域の方々との対話や交流が深まり、「コメリ緑資金の会」の活動もより

地域に根付いたものとなっています。

さらに2004年に発生した地元・三条市を襲った大水害と中越地震での経験をきっかけに、資材建材等を扱うホームセンターとして、災害時に必要な物資を迅速にお届けすることも大きな社会貢献だと痛感し、2005年に「NPO法人コメリ災害対策センター」を1%還元事業の一環として設立しました。

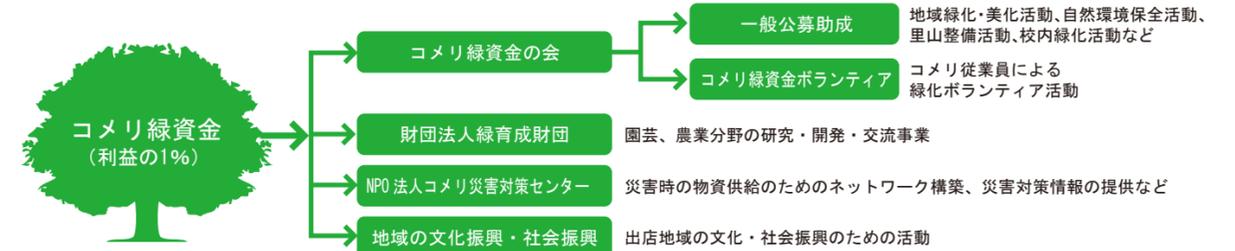
このように時代の流れとともに1%還元事業も変化し、当初の緑化活動のみならず園芸・農業分野における研究開発事業や環境保全を目的とした事業、文化・社会振興にまで支援の輪が広がっています。

企業は社会によって生かされているとコメリは考えています。私たちの住むふるさとがいつまでも緑豊かで平和であってほしいと願い、これからも1%還元事業を続けていきます。

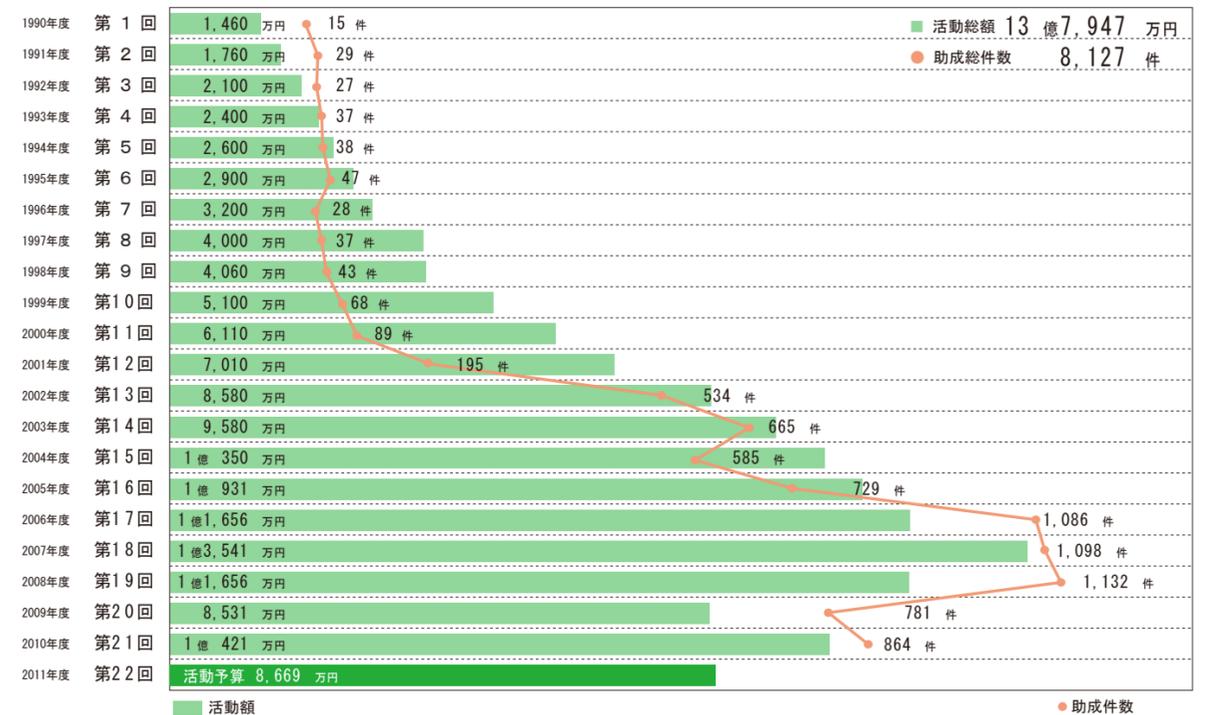


「花街道たいしま」づくり 大野第二中学校(岩手県洋野町)
通学路を花でいっぱいにする「花街道たいしま」づくりを行い、全長3.4kmにわたる通学路にマリーゴールドを植えたプランター915個を設置しました。コメリ従業員も活動に参加しました。

コメリ緑資金の流れ



コメリ緑資金 活動額の推移



2010年度 活動トピックス

ゴーヤを育てて地球温暖化防止

コメリは新潟市の(財)新潟県環境保全事業団とFM PORT79.0が行ったグリーンカーテンの普及活動「グリーンカーテンプロジェクト2010」に協賛し、5月と6月に新潟県のコメリパワー河渡店ほか3カ所で合計2,000名にゴーヤの種を無償配布しました。

夏の暑い日ざしをさえぎることで室内温度の上昇を抑えるグリーンカーテンは、省エネルギーによるCO₂削減がはかれることから近年注目が集まっています。

配布のイベントでは従業員が種のまき方や育て方を指導したり、(財)新潟県環境保全事業団がグリーンカーテンの効果を説明しました。



妙高市図書館でのグリーンカーテン

コメリ緑資金の会（一般公募助成）

「コメリ緑資金の会」は、私たちのふるさとが花や緑に囲まれていつまでも美しく平和であってほしいと願い、1990年の設立以来、緑化活動に取り組む諸団体への助成を続けています。

2010年度も8月から10月まで公募を行い、117団体より応募いただきました。社内外からなる審議委員の審議を経て99団体への助成を決定し、2011年2月4日立



春に「コメリ緑資金助成金贈呈式」を行いました。贈呈式には、助成先27団体にお越しいただきました。また、贈呈式にお越しいただけなかった団体には、最寄りのコメリ店舗従業員が目録を贈呈しました。

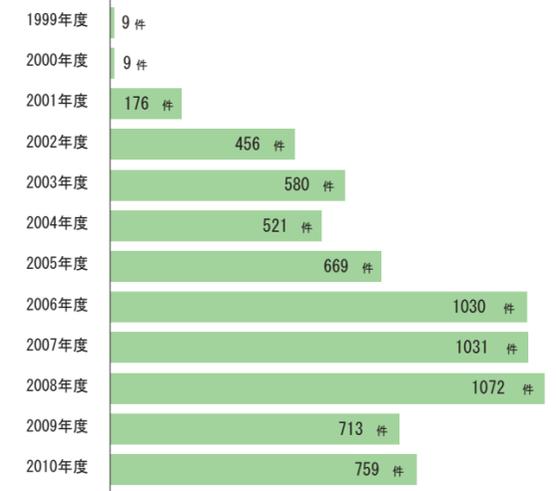
コメリ緑資金ボランティア

コメリ緑資金ボランティアは、コメリの従業員が幼稚園や保育所、小中学校などに伺い、子どもたちと一緒に実施する植栽活動です。活動先と打ち合わせて植栽する花苗や花壇レイアウトなどを決定し、使用する土やプランター、花苗などの手配を行い、園児や児童たちと一緒に花を植えています。1999年よりこの活動をはじめ、これまでにのべ21,000人を超える従業員が活動を行っています。

活動した従業員からは、「ありがとうと言われて嬉しかった」や「ボランティアをまたやりたい」などという感想があり、地域社会のために活動することの大切さや喜びを感じるよい機会となっています。

これからも「コメリ緑資金ボランティア」を推進し、地域社会との対話や交流を深め、緑あふれる町づくりに取り組んでいきます。

コメリ緑資金ボランティア 活動件数



第21回(2010年度) 助成先

都道府県	助成先	都道府県	助成先	都道府県	助成先	都道府県	助成先	
青森県	NPO法人白神自然学校一ツ森校	埼玉県	城山入ロフラワークラブ	新潟県	新潟県立燕中等教育学校PTA	大阪府	社会福祉法人白寿会	
岩手県	青森県立名久井農業高等学校	千葉県	川場美しいマチ研究会	福井県	おまつよいぐさ(月見草)を育てる会	兵庫県	みなみ花咲くまちづくり竹城台校区花ボラ会	
宮城県	洋野町教育振興会帯島実践区	東京都	認可地縁団体竜角寺自治会	山梨県	社会福祉法人とよさか環境会 つくし保育園	奈良県	西明市町連合自治会	
	街づくり集団「ゆいネット盛南」		ふれあい千葉		朝日の森の会		NPO法人ASUKA自然塾	
	NPO法人りま高野・地球の暮らしと自然教育研究所		NPO法人地球緑化センター		大塚区		第62回全国植樹祭和歌山県実行委員会	
	学校法人北山学園 りまほふ幼稚園 りまほふ保育園		NPO法人水と緑の環境ネットワークの会		美佐島緑の百年物語		花街道推進実行委員会	
	ねまわりのひまわり実行委員会		府中市立府中第七小学校		北中山まちづくり委員会		鳥取市立瑞穂小学校	
	ふるさとせらぎの会		多摩市立連光寺小学校		福井市立蒲谷町自治会		勝央町立勝間田小学校	
秋田県	秋田市立戸島小学校		おちあいつるまきガーデンクラブ		春江大好きプロジェクト		勝央町立勝央中学校	
	柳町女性会		NPO法人地域子育て支援センター		希望会		津山市立高倉小学校	
	秋田市立桜小学校		江の島みちルネサンス推進会議		久保ふれあいクラブ		花ネットワークBINGO	
山形県	白山花文字の会	神奈川県	NPO法人大磯町内の松並木敷地を大切にする会		桑戸桃たろう倶楽部		廃山に緑を増やす馬鹿会	
	鶴岡コミュニティガーデン		上大井福祉わかばの会 ふれあい花の道		菜の花の会		下郷アジサイ会	
福島県	こうすつべ西側イメージアップ作戦	新潟県	新潟大学工学部建設学科西村伸也研究室	長野県	NPO法人信州ふるさとづくり応援団東信支部		山口県	NPO法人ゆうゆうグリーン倶山
	NPO法人はるな		法末集落オープンガーデン実行委員会		北相木村立北相木小学校		道の駅みつふるさと発展協議会	
	花とみどりのふれあいまちづくり会		自然植物園を創る会		上郷倉自治会		徳島県	西祖谷山村連合婦人会
	会津坂下町花いっぱい推進委員会		NPO法人新潟水辺の会		NPO法人グリーンワーク三島		福岡県	NPO法人グリーンサポート
	福島県喜多方市立姥堂小学校		新潟雪権研究会		NPO法人にしん市民環境ネット		熊本県	NPO法人オハイト隊
	勤行川の花と緑とホテルと鮭を育てる会		四季を愛する会		阿波地域住民自治協議会			NPO法人ひとづくりまもネット あしたの少年の家
	いちようの会		藤見中学校50周年記念実行委員会		志摩市立船越中学校			NPO法人ひとづくりまもネット 豊野少年自然の家
	花と一万人の会	滋賀県	NPO法人新潟水辺の会		高島市立朽木中学校			NPO法人ひとづくりまもネット 天草青年の家
	コスモス花プロジェクト		社会福祉法人どれみ福祉会 どれみ保育園		清水川湧遊会			みながたグリーンクラブ
栃木県	宇都宮城跡地再生検討委員会		NPO法人里山クリーン新潟	京都府	猪会			NPO法人おおい環境保全フォーラム
	日光市立三依中学校		新潟市立大江山中学校		NPO法人花の懸け橋			
群馬県	財団法人尾瀬保護財団		花ももの郷桐尾		南丹市立殿田中学校			

第20回(2009年度) 助成先活動報告

どれみの森づくり

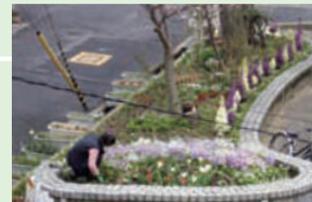
どれみ保育園では、遊具に頼るのではなく、森の中を駆け回るかのように育てたいと園庭への植樹を進めています。地元根付いた樹齢20年の大けや木の移植が決定し、5月27日に植樹祭を行いました。人々の集まる場所にしたいとケヤキの周りをウッドデッキで囲ったり、地域の方を招いてケヤキを囲んでの夏祭りを実施しました。木登りや葉っぱを使った見立て遊びができるよう、これからも植樹を続ける予定です。



町内花壇植栽活動 西明市町連合自治会(兵庫県明石市) 自治会の緑化推進部が中心となって、町内4カ所の花

REPORT

壇に花苗を植栽。明石市の花壇コンクールで(財)兵庫園芸・公園協会理事長賞を受賞しました。コンクールでの入賞は、4年連続です。



安らぎの木陰づくり

「みんなの力で次世代に林や森を残しましょう」を合言葉に、「シラカシの森 安らぎの木陰づくり」として継続的に植樹と剪定、草取りなどを行っています。今年も10月23日に植樹祭を開催。参加者はスコップを手に嬉しそうにシラカシと陽光桜を植樹していました。今回で合計10本のシラカシが植えられ、風格のある緑地帯になっています。



いちようの会(茨城県取手市)

【コメリ緑資金ボランティア】2010年度活動報告

花壇アートに挑戦

11月、堅田保育園にて活動を実施しました。花壇アートという要望があり、活動内容の打ち合わせの後、花担当者を中心に花壇のレイアウトを検討してご提案しました。当日は園児とともに楽しく植え込みをすることができ、良い経験ができました。先生、園児ともに喜んでいただくことができ、嬉しく思いました。



保育園のシンボルツリーの周辺に、カラフルな花壇をつくりました。



真剣に取り組む園児と間近で触れ合い、とても和やかな気持ちになりました。

3件のボランティアを実施

保育園1件、小学校1件、老人福祉施設1件で活動しました。どの活動先からも大変な好評をいただきました。また従業員にとっても有意義な経験となり、忙しい中でも時間を作ってボランティアに参加し、地域の方とふれあうことの大切さに気付くことができました。今後も1件でも多く活動し、地域の方との距離を縮めていきます。



活動先の一つ、かわべ保育園にて、皆でプランターに花苗を植えました。





ネパールの秘境ムスタン地域の植物の調査
現地スタッフと協力して研究を進めました。

財団法人緑育成財団

園芸・農業分野の発展のために

1991年にコメリ緑資金による助成制度をスタートし地域の緑化活動への助成を続けるなか、研究・開発事業には継続的な支援が必要なことから、1996年に財団法人緑育成財団を設立し、園芸・農業分野の新技術開発や研究事業への助成を行っています。

なかでも1999年から5カ年計画で実施した「ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業」は、長い間外国人の入域が制限されていたため未解明であったネパール・ムスタン地域に生育する植物の調査を行い、8つの新種を発見しました。また2008年には研究の成果をまとめた英文学術書「Flora of Mustang (ムスタン植物誌)」を出版し、世界に向けて発表しました。学術的な側面はもちろん、貴重な植物資源を保全する上でも大変価値ある成果を上げることができました。

緑育成財団では、今後も園芸・農業分野の発展のために研究・開発事業に助成を続けてまいります。

ムスタンで発見した新種



▲ミクロウラ・ムスタンゲンシス
(ムラサキ科ミクロウラ属・多年草)
花は非常に小さく、標高4200~4500mの高山草原に生育しています。



▼サルビア・トランスヒマライカ
(シソ科アキギリ属・多年草)
茎の高さは35~90cmもある大きな植物で、6~8月に花が咲きます。

2010年度 助成先活動報告

新潟県農業改良クラブ連盟(新潟県)

これからの日本の農業を担う若手農業者たちの集まりである新潟県農業改良クラブ連盟は、農業の活性化が地域の活性化につながるように、農業が抱える課題について意見を交換したり、生産技術の向上や消費拡大に向けて取り組んだ実績について発表したりなど交流・交換事業を通じて農業者の育成に取り組んでいます。

緑育成財団は農業の振興と発展を願い、1997年より新潟県農業改良クラブ連盟に助成し、その活動を支援しています。



2011年2月4日のコメリ緑資金助成金贈呈式で、2010年度の活動報告を発表していただきました。

緑育成財団活動実績

REPORT

ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業 成果報告会 「ネパール・ムスタン地方の花と植物」(2008年6月28日実施)

近年、植物の乱獲は世界各国で問題となっています。それにより絶滅危惧に瀕している種も存在しています。学術的な調査を行い、貴重な遺伝資源として認知し紹介することは、多少でも乱獲を防ぐ手段となりえます。

緑育成財団では、1999年より「ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業」のもと、ムスタン地域の貴重な植物資源の学術的調査を支援してきました。

ネパール国のムスタン地域はネパール中央部の中国国境に位置し、長い間外国人が足を踏み入れるのを拒んできました。しかしながらムスタン地域は、インド亜大陸とチベット高地とを結ぶ数少ない渓谷の一つであり、植物がどのように移動し、淘汰され、分布しているのかを考える上で興味深い地域でもあります。

本調査は、植物分類学の第一人者である東京大学・大場秀章名誉教授、上越教育大学・五百川裕准教授をはじめ、国内および現地研究者の方々と共に植物の調査活動を進めてきました。そして調査開始より10年を経て、その成果をまとめた「Flora of Mustang (ムスタン植物誌)」を出版。ムスタン地域の環境に



2008年6月28日に実施した成果報告会「ネパール・ムスタン地方の花と植物」。

適応した800種を超える植物について詳細に記録し、その中には世界で初めて見つかった新種も含まれています。また、湿潤な東ヒマラヤの植物との相違や、チベット高地や西ヒマラヤの乾燥地域の植物とのつながりについても記し、今後のヒマラヤ地域の植物を研究する上で不可欠な学術出版物となりました。

緑育成財団では「Flora of Mustang (ムスタン植物誌)」出版を記念して、2008年に本調査の成果発表会



本調査がネパール国の発展に寄与するものとして、ネパール政府植物資源調査研究所より感謝状をいただきました。

「ネパール・ムスタン地方の花と植物」を開催し、ムスタン地域における植物調査の意義、方法、成果について一般の方々にも分かりやすく、調査時に撮影した写真とビデオを使って紹介しました。

緑育成財団助成先

回数	助成先	所在地	事業内容
第1回(1996年度)	NF21研究会	新潟県新潟市	園芸新品種の開発、育成
	新潟大学大学院	新潟県新潟市	新潟地方における庭園の構成に関する調査研究
第2回(1997年度)	ネパール・ムスタン地域開発協力会	ネパール	植物の希少品種栽培に關する技術および人材交流
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
	新潟大学農学部	新潟県新潟市	植物ろ材系(バイオジョフィルター)を用いた浮島による佐潟水質浄化技術の開発
第3回(1998年度)	羽茂町ぎんなん生産組合	新潟県羽茂町	ぎんなんの超密植栽培
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第4回(1999年度)	ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業チーム	ネパール	ネパール・ムスタン地域の植物の調査・研究
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第5回(2000年度)	ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業チーム	ネパール	ネパール・ムスタン地域の植物の調査・研究
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第6回(2001年度)	植物流通会議	新潟県白根市	園芸の近代化の為の流通および情報ネットワークの構築
	ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業チーム	ネパール	ネパール・ムスタン地域の植物の調査・研究
第7回(2002年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
	植物流通会議	新潟県白根市	園芸の近代化の為の流通および情報ネットワークの構築
第8回(2003年度)	ネパール・ムスタン地域花卉資源調査発掘事業チーム	ネパール	ネパール・ムスタン地域の植物の調査・研究
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第9回(2004年度)	植物流通会議	新潟県白根市	園芸の近代化の為の流通および情報ネットワークの構築
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第10回(2005年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第11回(2006年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第12回(2007年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第13回(2008年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第14回(2009年度)	国立大学法人新潟大学	新潟県新潟市	鉢物輸入時における品質劣化の原因究明とその改善策についての検討
	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業
第15回(2010年度)	新潟県農業改良クラブ連盟	新潟県新潟市	ヤングファーマー技術開発・交換・交流事業

※所在地は助成当時のものです。



東日本大震災 陸上自衛隊からの物資要請に対応

NPO法人コメリ災害対策センター

平成16年、新潟県では集中豪雨による7.13水害、新潟県中越地震という大規模災害を立て続けに経験し、災害の恐ろしさを知るとともに、早急に災害対策を充実させることの重要性を痛感しました。

そこで、永続的な災害対策に取り組むため、平成17年9月に「NPO法人コメリ災害対策センター」を設立しました。当法人は、災害発生時に迅速かつ円滑に物資の供給を行うため、全国の各自治体、コメリグループ各社、そしてお取引先企業との連携による物資供給ネットワークを構築して災害時に備えています。

その第一歩として全国の各自治体へ災害時における物資供給に関する支援協定締結を進めています。また、広報誌やWebサイトを通じた平常時における自治体との情報交換、防災啓発活動にも力を注ぎ、地域の一人としての役割を果たすべく活動しています。

防災啓発活動・防災訓練への参加

平常時には、各自治体との連携強化のため、防災訓練や防災啓発活動に参加しています。

2010年度 参加件数
全国で42件



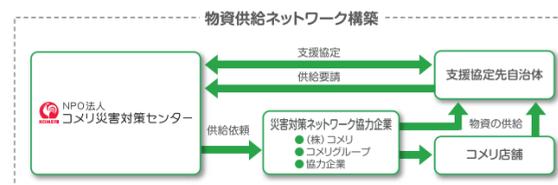
2010年5月29日
米代川水防演習(秋田県)
救援物資輸送訓練へ参加しました。

災害時の物資供給のネットワーク構築

全国の各自治体との災害時における物資供給に関する協定締結を進め、災害時の物資供給のネットワーク構築を推進しています。

支援協定締結件数 280件
(2011年3月31日現在)

協力企業 214社
(コメリグループ含む)



災害対策関連情報の提供

協定を締結している全国の各自治体との平常時におけるコミュニケーションのため、広報誌「サポート」を4月と10月に発行しています。また、各自治体からご提供の被災対策記録やコメリ災害対策センターの物資供給状況などをWebサイトで広く公開しています。



Webサイト

広報誌「サポート」

東日本大震災

2011年3月11日14時46分頃三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、岩手県や宮城県、福島県の沿岸地域では津波による被害が広範囲に及びました。

コメリ災害対策センターへは地震発生直後から物資要請が相次ぎました。今回の地震では、広域での甚大な被害の発生や福島第一原子力発電所の事故、燃料不足などの影響により物資の配送が困難を極めたもの



福岡県大牟田市から要請を受けて福島県相馬市へ救援物資をお届けしました。



東日本大震災では陸上自衛隊から物資要請を受け、コメリの流通センターにて物資の積み込みを行いました。

東日本大震災における物資供給（物資内容は一部抜粋）

■各団体からの要請に対して緊急に物資を供給した店舗一覧		■コメリ災害対策センターから直接供給	
●岩手県	パワー花巻店	●岩手県	毛布 1,000枚
●岩手県花巻市	パワー花巻店	●宮城県仙台市	間仕切ダンボール 1,800枚
●宮城県亶理町	H&G亶理店		使い捨て食器 300,000個
●宮城県大崎市	H&G岩出山店		幼児用オムツ 173,000枚 他
●陸上自衛隊神町駐屯地(宮城県)	パワー東根店		カセットボンベ 9,000本
●福島県	H&G瀬上店	●新潟県	電池 16,000本
●福島県ボランティアセンター	パワー安達店		カイロ 3,000個 他
●茨城県笠間市	H&G友部店	●千葉県	石油ストーブ 200台
●千葉県	H&G市原古市場店		毛布 3,280枚
●新潟県	パワー河渡店	●埼玉県	トイレトベーパー 94,000巻 他
	パワー新発田店	●埼玉県美里町	簡易トイレ 900個
	HC小針店	●高知県香南市	間仕切ダンボール 1,800枚 他
	HC内野店		ブルーシート 120枚
	H&G村松店	●福岡県大牟田市	ブルーシート 1,000枚
●新潟県長岡市	HC西長岡店		(福島県鏡石町への救援物資として)
	HC宮内店		トイレトベーパー 3,240巻
	PW三条生活館	●日本赤十字社	石けん 1,800個 他
	HC北長岡店		(福島県相馬市への救援物資として)
	H&G三条物資材館	●陸上自衛隊	下着 30,000枚
●新潟県三条市	HC三条四日町店		靴下 10,020足 他
	H&G大崎店		防塵マスク 10,000個
●陸上自衛隊大津駐屯地(滋賀県)	HC堅田店		ゴム手袋 3,500個
			PPロープ 1,580巻
			ウェットティッシュ 12,000個 他
		●内閣府	長靴 22,200足
			トイレトベーパー 20,064巻

口蹄疫

宮崎県内で「口蹄疫」の感染が拡大し、災害時の支援協定締結先自治体から防疫資機材の供給要請があり、自然災害時同様に迅速に対応しました。宮崎県家畜保健衛生所からの要請に対しては、最寄りのコメリ店舗を窓口として連日打ち合わせを行い、ポリペールやゴミ袋、肌着、軍手、消石灰など防疫作業用物資を約2か月にわたって供給しました。また、コメリ店舗を物資の一時保管場所としてお使いいただくなど、防疫作業を少しでも円滑に進めていただける体制作りに努めました。



最寄店舗から必要な資材を順次配送しました。

鳥インフルエンザ

2010年12月以降、各地で鳥インフルエンザが発生し、災害時同様迅速に物資を供給しました。最寄りの

の、商品調達にあたるコメリ商品部とSCM部、配送を受け持つ北星産業株式会社、被災地周辺の店舗そして多数の協力企業と一体となり対応にあたりました。

被害を受けなかった自治体から被災自治体へ救援物資を送りたいとの要請にも対応しました。また、協定締結先自治体の他に、内閣府や陸上自衛隊、日本赤十字社などからも物資要請があり、延べ200件に及ぶ物資供給を行いました。

コメリ店舗を窓口として、宮崎県や和歌山県、三重県、奈良県からの要請に対してポリペールやゴミ袋、肌着、軍手、消石灰など防疫作業に必要な物資を供給しました。また、長崎県から防疫資材を備蓄したいとの要望を受け、長崎県内4カ所の備蓄倉庫へ配送を行いました。

豪雪

2010年12月末から翌年1月にかけて、日本海側を中心に豪雪となりました。秋田県の横手市、由利本荘市、新潟県の長岡市、魚沼市からスコップやスノーダンプなどの除雪用品、長靴やカンジキといった作業用品の要請を受け、供給しました。



長岡市への除雪用品納入の様子。



レジ袋の削減や省エネにより、環境負荷の少ない店舗運営に努めています。

環境保全への取り組み

レジ袋の削減

コメリは、2007年よりレジ袋の使用量を減らすことで、地球温暖化につながるCO₂の抑制やゴミの減量化に努めています。

店頭ではマイバッグ推進ポスターや店内アナウンスでのレジ袋削減の呼びかけ、お買い上げ少数の場合のシール対応、エコバッグの販売などを通じて、お客さまにご協力をお願いしています。

また、全国の各自治体ともレジ袋削減の話し合いを進め、合意が得られた自治体と協力し、レジ袋削減の取り組みを推進し、2県4市4町の自治体にある49店舗でレジ袋の無料配布を中止しています。

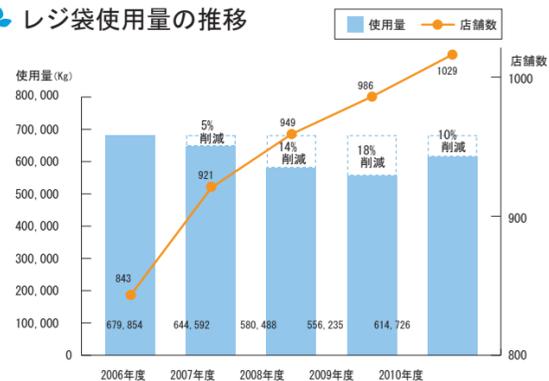
そこで販売されたレジ袋の収益の一部は、地域の環境活動等でお役に立っています。

これからも各自治体や地域のお客さまとともに、レジ袋の削減を積極的に進めてまいります。



レジ袋削減を呼びかけるポスターを店内に掲示しています。

レジ袋使用量の推移



※2010年度は、大型店の出店などで取り組み以降はじめて前年増加に転じましたが、2006年度比で10%の削減を実現しています。
※アテーナ店舗は数字に含まれておりません。

「トキの森クレジット」の利用でカーボン・オフセット

コメリは、2010年3月に新潟県と「カーボンオフセットパートナー」提携を結び、新潟県佐渡市で販売したレジ袋の収益の一部を「トキの森クレジット」(CO₂排出権)の購入に充てています。

「トキの森クレジット」の購入により、相当金額分のCO₂がオフセットされるだけでなく、その収益はトキの野生復帰に向けた佐渡の森林整備等に活用されています。

省エネルギーの取り組み

コメリは、2009年に「省エネ委員会」を設置し、省エネルギーに取り組んでいます。特に店舗で使用されるエネルギーの約8割を電気が占めていることから、日頃よりこまめな消灯や空調機の温度調整などで電気使用量の削減に努めるほか、省エネ型設備への入れ替えを進め、環境負荷の少ない店舗運営を実施しています。

2010年度は、6月までに150店舗4,076台の蛍光灯をより消費電力の少ないHf蛍光管に交換しました。これにより交換150店舗の2010年度の電気使用量は前年比90.6%となり、CO₂換算で857.2トン削減することができました。

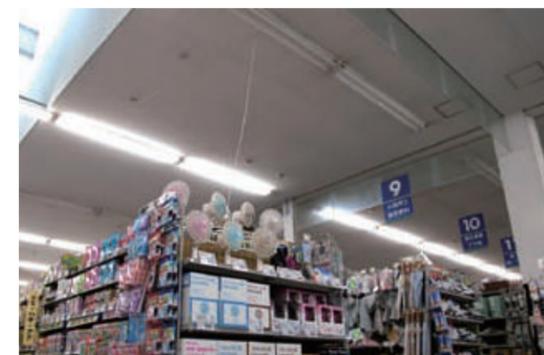
また、13店舗150台の空調機を省エネタイプのものに交換しました。



コメリ環境対策テキスト

「節電計画アクションプラン」策定

2011年度は、東日本大震災の影響で全国的に電力不足が懸念され経済産業省では節電を呼びかけています。コメリはこの呼びかけに対応し、省エネ委員会を中心に「節電計画アクションプラン」を策定しました。具体的にはお客さまにご迷惑をかけない範囲内で店内照明や看板灯を消灯したり、夏の空調温度を昨年設定温度よりも1℃高い27℃設定にするなどし、最大電気使用量15%削減を実現します。



店内の照明を互い違いに点灯し、全体の使用量を削減します。

2010年度 トピックス

電気自動車用 充電器設置

新潟県は地球温暖化防止と関連企業の振興を目指し、電気自動車・プラグインハイブリッド車の普及に取り組んでいます。しかしながらその普及には充電インフラの整備が不可欠なため、2011年1月22日、新潟、埼玉、群馬の三県知事会議において、三県を縦断する国道17号線沿いに電気自動車の充電インフラを整備していくことが合意されました。

このことを受け、コメリは、環境に配慮した電気自動車の普及とお客さまの利便性向上をはかるため、2011年3月16日にHC湯沢店に新潟県内の商業施設としては初となる電気自動車急速充電器を一器設置し、運用を開始しました。

充電器は駐車場の一角に設置し、使用料は1回525円(税込)、充電時間は最大30分です。新潟県上越市から群馬県に向かう途中で充電されたお客様は、「今日は雪のために電気の消費が早く心配しましたが、昨日の新聞で設置を知り立ち寄りました。コメリの看板と充電器を見たときは感激しました」と話されました。

電気自動車は、温室効果ガスの原因となる走行中のCO₂排出がなく、環境にやさしい次世代自動車として注目を集めています。今後は、お客様の利用状況などを踏まえ、設置店舗の拡大を検討していきます。

TOPICS



駐車場の一角に設置された急速充電器。



電気自動車の急速充電器を設置したHC湯沢店。設置店舗であることが分かるように、外壁に大きく看板を掲げています。



地域社会の発展を文化活動、スポーツ振興活動、募金活動からも支援しています。
(写真は雪梁舎美術館)

社会文化活動

文化活動

雪梁舎美術館

雪梁舎美術館は、若手芸術家の発掘と育成、文化芸術の振興と発展、貴重な文化芸術作品の収集を目的に、1993年に設立されました。

毎年、精鋭作家の発掘を目的とした公募展「雪梁舎フィレンツェ展」を開催し、大賞受賞者にはルネサンス文化発祥の地イタリア・フィレンツェでの100日間の創作活動を支援しています。

また、フィレンツェ賞展上位入賞者を中心に「雪梁舎 風の会」を設立。作品発表の場や作家同士が交流し切磋琢磨する機会を提供し、若手作家の育成に力を入れています。



コメリ本社で行われた雪梁舎フィレンツェ賞展の審査の様子。

2010年の「第12回フィレンツェ賞展」には、全国37都道府県から173点の応募があり、フィレンツェ大賞1点と優秀賞2点、ピアンキ賞1点をはじめ39点の入賞・入選作品が決定しました。8月1日から9月5日まで雪梁舎美術館にて展覧会を開催し、大勢のお客さまが入選作品を鑑賞されました。

また2010年12月2日から7日まで、神奈川県横浜赤レンガ倉庫にて巡回展を開催。期間中、1,500名もの大勢のお客さまにご来場いただきました。

コメリは、第1回のフィレンツェ賞展より協賛し、雪梁舎の活動を支援することで文化芸術の発展に貢献しています。

スポーツ振興活動

新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ オフィシャルスポンサー

2010年4月29日(祝)に「コメリサンクスデー」を開催し、5,000名を超える観客とともにチームの試合に熱い声援を送りました。

また、試合終了後には選手とのキャッチボールやノック体験などのミニ野球教室を実施。野球を通じた地域の活性化とスポーツ文化の振興に努めています。

アルビレックス新潟 ユニフォームスポンサー

アルビレックス新潟は、1996年に発足したプロサッカークラブで、新潟県新潟市と聖籠町をホームタウンとし、現在J1リーグで活躍しています。

アルビレックス新潟が提唱するクラブコンセプト『子供たちに夢を与え、地域を支える人とともに街づくりに貢献し、スポーツ文化を創造する』は、地域により近い店づくりを目指すコメリのコンセプトと共鳴し、2011年度よりアルビレックス新潟のユニフォームスポンサーとしてチームを支援しています。



コメリサンクスデー



2011年2月12日、アルビレックス新潟のユニフォームスポンサーについて記者発表をする(左)アルビレックス新潟の田村貢社長(左)と棒社長(右)。

日本全国の地域社会が元気になり、イキイキと暮らせる街づくりに貢献できるよう、サポーターの皆さまとともにアルビレックス新潟を盛り上げていきます。

募金活動

ユニセフ募金

コメリは、グループ全店に募金箱を設置し、来店されるお客さまにユニセフ募金への協力をお願いしています。2010年度は5,635,314円の募金をいただき、これまでの総額は62,215,780円になりました。

お寄せいただいた募金は(株)日本ユニセフ協会を通じて世界の子どもたちのために役立てられています。

募金額の累計(円)



家畜伝染病「口蹄疫」被害 義援金募金

宮崎県内で猛威をふるった家畜伝染病「口蹄疫」の被災地および被災農家支援のため、2010年5月20日から6月6日まで九州100店舗で、さらに6月15日から7月4日までコメリグループ1,025店舗において義援金の募金活動を行いました。

お客さまをはじめとする大勢の方にご協力いただき、総額1,548,334円の義援金が寄せられ、7月29日、九州地区本部の馬場ゾーンマネージャーが宮崎県庁を訪問し目録をお届けしました。



宮崎県福祉保険部 田原新一次長(写真右)に目録を手渡しました。



コメリグループ綱領

- 一、 店は神聖なる殿堂である。愛と真実とまごころをもって世の中の人々に奉仕する。
- 二、 優れた先人の業績を謙虚に学び、創意を尊びつつ真理の探究を目指す。
- 三、 仕事は正面から取り組み、正々堂々と根性を据えてかかれば、必ず道は開ける。
- 四、 寸暇をおしんで自己の研鑽につとめ、己の仕事が常に業界の第一人者であることを目指す。
- 五、 己を大切にすることは、他を大切にすることだ。人も物も金も、天が与えた不思議な出会いである。
- 六、 経営を単純化、標準化、専門化して、最も低い経費で運営する。
- 七、 商品から目をはなすな。原材料、加工、運搬、販売、消費、商品こそ吾等の魂である。
- 八、 正しい経営理念と誠実な営業活動の中から必ず適正な利潤が生れる。欠損は罪悪である。
- 九、 自らの任務を完遂し、会社の方針のもとに一致団結、使命達成に力闘する。
- 十、 店の発展は会社の幸福であることを信じ、至誠をつくして和親協力をする。

コメリグループ行動指針

私たちコメリグループは、私たちの事業活動が、お客様、株主様、お取引先様、従業員、地域社会（以下、「ステークホルダー」と称します）、そしてご縁のあった全ての方々に幸せにするために存在することを願っております。その願いを具体的な行動の中で実現していくためのガイドラインを2005年に決めました。グループ内に周知徹底させると共に、各ステークホルダーをはじめとして社会に広く公表いたします。

1. コメリグループは、全てのステークホルダーの権利を尊重し、公正かつ最適な行動を選択いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)お客様、株主様、お取引先様、従業員、地域社会（以下「ステークホルダー」と称します）、そしてご縁のあった全ての方々に幸せにするため、誠実で正直な行動を実践します。
- (2)全てのステークホルダーとの約束は、どんな小さな約束でも守り大切にします。
- (3)商品・サービスの提供を通して、全てのステークホルダーの人権を尊重し、敬意を払い、相手の立場になって考え、行動します。
- (4)全てのステークホルダーの、ご意見、ご要望、苦情、お問合せなどに対しては、真摯に受け止め、誠実な対応で今後の事業活動へ反映します。

2. コメリグループは、全てのステークホルダーと固い信頼関係を築くため、業務上知り得た情報を厳重に保護・管理いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)全てのステークホルダーの個人情報の取得については、目的を明らかにし、目的以外に使用しないことはもとより、取得した情報は漏洩、紛失などないよう管理します。
- (2)情報セキュリティをはじめとする安全対策を行い、不正アクセスなどを防止するとともに、関連当事者への教育、啓発活動を積極的にを行います。
- (3)全てのステークホルダーからのさまざまな情報やグループの営業上知りえた機密やノウハウなどは、適正に管理し、外部に漏らしません。
- (4)情報を保護するため、情報関連機器の取り扱いルールや書類の管理について規則、マニュアルを適切に定め、これを守ります。

3. コメリグループは、全てのステークホルダーとの対話を重視し、企業情報の開示については迅速・公正かつ積極的にまいります。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)全てのステークホルダーとの対話、コミュニケーションを大切にします。
- (2)全てのステークホルダーが必要とする情報を、タイムリーにわかりやすく、かつ正確に開示し、経営の透明性を高めます。
- (3)適正な会計記録を迅速かつ正確に開示し、経営状態ありのままお知らせします。
- (4)全てのステークホルダーに正しく理解いただくために、客観的事実に基づき誠実な広報活動を行います。
- (5)会社情報を開示する時は、所定の社内手続きに従い、新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアと接触する場合には、原則として事前に広報責任者の了解をとります。

4. コメリグループは、お客様の暮らしをより豊かにするため、安全・安心な商品・サービスをより低価格でご提供すると共に、快適な買い物環境の整備を進めてまいります。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)安全・安心な商品を提供するため、原材料、加工、運搬、販売、消費のあらゆる側面で努力を続けます。
- (2)お客様に配慮したわかりやすい、探しやすい売場づくりに取り組むとともに、商品の説明、POP、広告などの表示はわかりやすく、平易な言葉で正確に伝えます。
- (3)商品・サービスに挨拶と笑顔を添えます。
- (4)安全・清潔な売場環境と利用しやすい店づくりに取り組みます。
- (5)商品またはサービスに関する事故またはトラブルが発生した場合は、お客様の安全の確保を最優先し、迅速かつ適切に対応します。

5. コメリグループは、公正・透明な取引を旨とし、自由な競争を尊重いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)公正・透明な取引のため、コンプライアンスプログラムを策定し、実施します。
- (2)お取引先様に対して真摯で礼儀正しい対応をこころがけ、贈答・供応などはお断りするとともに、社内ルールに基づいた行動を徹底します。
- (3)取引上のトラブルを未然に防止するため、取引開始に当たっては、経営方針、取引条件を明確に提示します。
- (4)商品・サービスについて安全・安心を最優先するお取引先様を尊重します。

6. コメリグループは、従業員の権利を尊重し、安全で働きやすい環境を確保いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)多様な人材が個々の能力を十分に発揮できる人事処遇制度を構築します。
- (2)安全かつ衛生的な職場の環境整備に努めるとともに、従業員の健康を重視した働きやすい環境を実現します。
- (3)従業員の資質と創造性を活かせるように支援するため、教育・自己啓発の機会を提供します。
- (4)従業員一人ひとりが誇りをもって働くことのできる企業風土を構築するとともに、お互いの人格を尊重し、差別やハラスメントのない職場を実現します。

7. コメリグループは、企業倫理と社会のルールを遵守し、そのために必要な組織・規程を整備いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)誰からも信頼を得るためには、社会ルールを遵守することが、義務であり責任と考え、すべての業務活動の基本とします。
- (2)株主の皆さまからの、総会での決議をはじめ、ご意見を尊重し、お客様満足の経営に活かします。
- (3)危機管理の視点から、緊急事態の発生を未然に防止するための社内体制を整備し、万一発生した場合は、速やかに調査、究明を行い責任ある適切な対応をします。
- (4)社会の秩序や市民生活の安全に脅威を与える反社会的勢力、組織または団体とは関わりを持たず、これらの圧力に対しては、断固として対決し、これを排除します。
- (5)グループまたは他社のインサイダー情報を知った場合は、その事実が公表されるまでグループおよび他社の株式の取引をしません。

8. コメリグループは、良き企業市民として、地域社会との協力を図り、その健全なる発展に貢献いたします。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)店舗出店に当たっては、周辺の生活環境に配慮し、交通、駐車、騒音、臭気などの問題に積極的に取り組み、地域住民との良好な関係を構築します。
- (2)事業活動を行うあらゆる地域において、コミュニティの成長と豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。
- (3)「緑資金ボランティア」など従業員の自発的な社会参加を支援します。
- (4)NPO法人を設立し、地域社会等と課題解決のための活動に積極的に取り組みます。
- (5)被災地救済のための支援活動を行います。

9. コメリグループは、広く国際社会の一員として、地球環境の問題に積極的に取り組みます。

行動基準

私たちコメリグループメンバーは、

- (1)お客様のご協力をいただき、レジ袋使用量の削減、簡易包装の推進をします。
- (2)事業活動の全分野で、節電節水をはじめとする省エネルギー型の店舗運営を行い、商品の包装やサービスの提供方法を見直し、省資源に努めます。
- (3)商品の安全性はもとより、環境負荷の少ない商品を販売し、環境を考えた生活提案を行います。
- (4)地域の皆さまとともに緑豊かな街づくりを進めるため、省エネ、廃棄物の削減及びリサイクル活動を推進します。

会社概要

- 社名／株式会社コメリ
- 創業／1952年4月
- 設立／1962年7月
- 資本金／188億213万円
- 株式／東京証券取引所（市場第1部）
- 本社所在地／〒950-1492 新潟市南区清水4501-1
TEL. 025-371-4111（代）
- ホームページ／<http://www.komeri.bit.or.jp/>